

# 共に

## 塩尻市生涯学習部男女共同参画・人権課

塩尻市大門七番町4番3号  
TEL：(0263) 52-0280 内線3151  
FAX：(0263) 54-2705  
Eメールアドレス：kyoudou@po.city.shiojiri.nagano.jp

### 特集

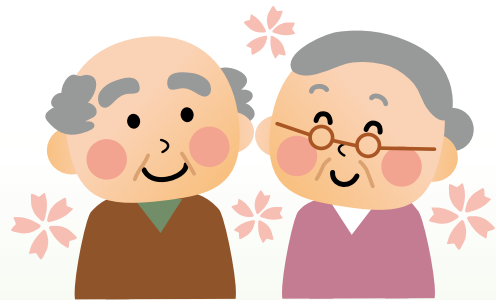
#### ～ 介護の男女共同参画 ～ Part1 課題と現状

● 男女共同参画推進地域交流会参加報告 ● 相談案内 ● 今後の予定

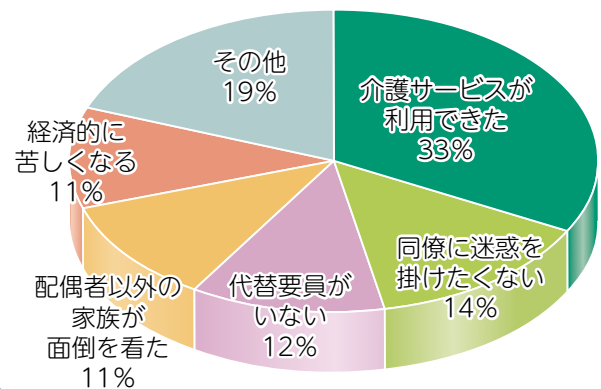
### 介護って誰の役割？

今や、日本一の長寿県となった長野県。高齢化が急速に進みつつあります。

それに伴い介護が必要な高齢者が年々増加しています。塩尻市の高齢化率は25.2%（平成25.4.1現在）と全国平均の23%を上回っています。「仕事を続ける上で気がかりな事柄」として自分の健康の次に、両親や病人の介護、看護が大きな割合を占めています。介護は多くの人々が避けて通れない課題です。本年度は、「男女が共に介護に向き合って、協力していける社会にするには」について考えていきましょう。

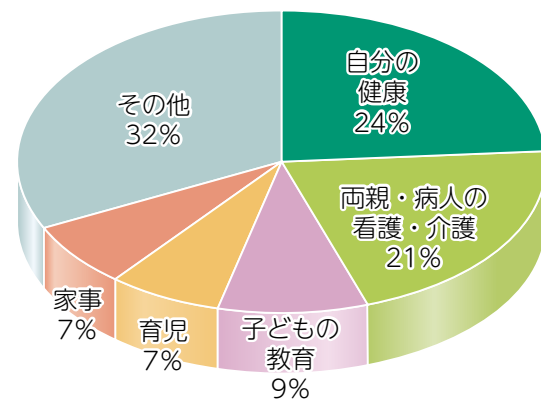


### 介護休暇を利用しなかった理由



塩尻市統計 平成22年度

### 仕事を続ける上で気がかりな事柄



塩尻市統計 平成22年度



男女共同参画

# INFORMATION インフォメーション

男女共同参画推進地域交流会に参加して  
演題の「…女も度胸…」とは？と興味を覚えまし  
た。  
吉村さんは学校卒業後会社勤めを経て結婚、そ  
して出産で退社された。四〇代後半まで子育てし、  
手が離れたことから、経営学・マーケティングに  
ついて大学院で学ばれたそうです。大学院卒業と  
同時に地元、寿台の「公民館長に」との声がかか  
り、即座に「よくぞ私に持ってきてくれた！」と  
快諾。こんなところにも「女も度胸」の片鱗が見  
えるのではないかと思います。  
寿台は造成して四〇年になる地区で一斉に高齢  
化が始まり、『男性でなければ…』などと言っ  
ていたら公民館活動は立ち行かなくなってしまうと  
ころまで来ていたとのこと。そこで、「まず  
地域を活性化しなければ…」と、和太鼓、利き酒、  
料理、古典などといった講座を作り、老若男女を  
引き入れた活動を始めました。  
和太鼓連は施設で発表出来るまでに上達しまし  
た。利き酒講座は県内の蔵元を回って研究し、つ  
いには自分たちのオリジナル酒を造ることになっ  
た。このオリジナル酒は、酒米を造ることから始  
め、昔ながらの醸造を蔵元に委託して「寿一  
番星」と名付けて、地元で季節限定での販売を出  
来るまでになったのです。また、地産地消の精神  
から、味噌造りや凍み豆腐作り、餅つきなど大勢  
の賛同を得て進めていきます。

男女共同参画推進地域交流会を開催しました  
平成26年6月28日(土) 塩尻総合文化センター  
演題「男は度胸、女も度胸」  
地域づくりと男女共同参画  
講師 吉村 幸代 氏  
(前 松本市寿台公民館長)

## これからの

## 行事予定

☆女と男21セミナー  
11月6日(木)午後7時～午後9時  
高出地区井戸端会議  
場所 高出地区センター  
内容 住みよい地域づくり  
講師 内山 二郎 氏  
平成27年1月17日(土)  
シンポジウム  
場所 市民交流センター えんぱーく  
内容 デートDV・性同一性障害  
講師 内山 二郎 氏  
事例発表 三村 春美 氏 他  
☆豊かな心を育む市民の集い  
12月6日(土)  
場所 レザンホール  
内容 災害時における男女共同参画  
講師 宗片 恵美子 氏  
(イコールネット仙台)

これらの活動の根底には「やっぱり女は駄目だ」と言われないために踏ん張ってきた努力があったのだ」と言います。公民館長を退職した今、『館長時代の六年間は、人生で一番輝いていた。』と述懐しておられました。  
最後に、男女が同じに地域社会で活動するためには『男性の理解と協力』『女性の自覚と努力』が必要だと強調されます。そして、男性でも女性でも「みんなが支えたいくなるようなリーダーになること」と結ばれました。この講演会から、「男女相互の向き合い方の大切さ」を思いました。

## 編集後記

塩尻市の高齢化率（人口に対する65歳以上の割合）も25・2%（H25・4・1現在）と確実に進行しています。介護の問題は誰もが避けて通れないのが現実です。家族の介護は誰がするのか？一緒に考えてみませんか？  
本紙が参考になれば幸いです。  
川上 博昭  
青木 慶子

## 相談案内

### 女性のさまざまな悩みごとなどの相談♡

◇塩尻市女性相談【面接相談は要予約】 0263-54-0783  
[電話相談・面接相談 月～金 9：00～17：00]  
◆県松本保健福祉事務所（松本合同庁舎内） 0263-40-1914  
♡県女性相談センター 026-235-5710  
♣県男女共同参画センター（あいとびあ） 0266-22-8822  
♠女性の人権ホットライン（長野地方方法務局） 0570-070-810  
◇児童虐待・DV24時間ホットライン 0263-91-2410  
♥塩尻警察署（生活安全課：DV相談） 0263-54-0110

お気軽にご相談ください



## 「今も元気な二人のおばあちゃん」

まず一人目のおばあちゃん103歳（要介護2） 松本市 夫70歳・妻（長女）70歳

長女（仮名 幸江さん）夫婦と同居しています。家の中は摺まり歩きですが、一人で歩き、食事もみんなと一緒にテーブルで食べています。総入れ歯ですが普通のものは食べられ、トンカツなどは好んで食べています。

昔から手先の器用な人で、小物を作りバザーなどへ出品していました。この頃でも、かぎ針編みで小物を作っています。

長女夫婦が家を空けなければならない時は、ショートステイを利用して預かってもらいます。幸江さんが留守の時は、近くに仕事場を持っている自営業の夫が昼食時に帰って来てくれて一緒に食べることもあります。

幸江さんは「夫の助けもあり趣味を続けることが出来、私の息抜きとなっています」と言っています。



## もう一人のおばあちゃん99歳（要介護1）

塩尻市 妻（長女）70歳

昔からの農家に長女一家（仮名 陽子 さん）と暮らしていて、今でも庭や野菜畑の草取りはおばあちゃんがしています。足が丈夫なので週2日、歩いて10分歩度のディサービスへ通っています。歩いて通うのはこの施設で最高齢のおばあちゃんだけで、みんなから羨ましがられています。

お風呂も施設で入れてもらいます。朝は起きて着替えをして（季節外れの物を着てくることもあるが…）決まった時間に朝食と一緒に食べます。食事は総入れ歯ですが普通に食べられ、野菜の煮物が好物です。天気の良い日には涼しい間、草取りをしています。

82歳の時には初めての海外旅行でフランス、スペインなど陽子さん一家と10日程行ってきました。単身赴任をしている陽子さんの夫が時々帰ってくるので、好きな野菜を食べさせたいと野菜作りにせっせと励んでいます。

陽子さんは「若い頃から特に丈夫な方ではなかったのですが、こうやって元気でいられるのは江戸時代から続いてきた昔の家にお嫁に来て、住み慣れた環境に暮らし、好きな農作業をしながら生活してきたことが長寿につながったと思います」と言います。

おばあちゃんは「畑があってきれいな山が見えてここは本当にいいとこだ」と言っています。



## インタビューの感想 赤羽すえみ

私の取材は2例とも家庭介護の成功例だと思います。

たまたま二人とも長女と同居だということですが、夫の物理的・精神的な協力なくしては出来ないことです。住み慣れた家に家族と一緒に暮らせたことが今も元気で生活できていることにつながっていると思います。

## 「自分が納得するまで、最期まで家族として」

一人暮らしの夫の母（97歳）を夫婦で介護した日々（要介護2→5）

広丘吉田 夫70歳・妻65歳

## ◀◀ 経緯 ▶▶▶▶▶

2006 夫退職。帰省し夫婦で介護開始。母の介護度【要介護2】

2008 母が大腿骨骨折。車イスの生活に【要介護5】

2013 母97歳で逝去

## ◎介護施設はどのように利用しましたか？

ディサービス・・・週4日頻度の利用

ショートステイ・・・一ヶ月に15日利用（自分たちの都合に合わせ、3回に分けて）

## ◎在宅看護を選んだ理由は？

- ・人任せにしないで、自分が納得いくまで介護したかった。（妻）
- ・最期まで家族として、普通の家庭生活をさせてやりたかった。（妻）
- ・母が施設から「ただいま」と嬉しそうに帰ってくる時の笑顔を見て、「最期まで家族として一緒にすごそう」と思った。（夫）

## ◎男性（夫）が介護に関わるようになった時の気持ちは？

進学から就職し退職するまでずっと家を離れていたもので、数十年ぶりに年老いた母と同居を始めた時は、認知症になってしまった母をなかなか受け入れることができなくて苦しかった。施設の職員の話の聞いたりして勉強し、少しずつ気持ちを切り替えて行った。

## ◎どんな仕事を分担しましたか？

- ・母の介護度が進むにつれて、身体を持ち上げたりする仕事は、どうしても男性の力が必要になってきた。（妻）
- ・妻と一緒に、自分に出来ることは何でもした。（夫）

## ◎今振り返って思う事は？

- ・いろいろあったけれど、最期まで家族として一緒に過ごせて良かった。
- ・母もそう思ってくれていたと思う。

## ◎現在介護している人たちに伝えたい事は？

- ・暗くならないで、明るく介護するにはどうしたらいいかを、夫婦で常に話し合う。
- ・介護していることを不幸とは思わないで、生き甲斐にする。
- ・介護者は常に健康でいることを心がける。
- ・悩みを自分たちだけで抱え込まないで、経験者や施設の職員に相談する。
- ・分からない事は公的な機関に相談して、利用できるものは利用して、上手に気分転換をすることが大切。
- ・別れは突然に来るので、その時後悔しないように夫婦二人で協力して、明るく賢い介護を目指してほしい。



## インタビューの感想 加藤智子

「最期まで、家族として一緒に、普通の生活をさせてやりたい」誰しもが願う介護の形かもしれません。十年間、様々な困難を乗り越えながら二人で協力して、介護されたご夫婦は、今は充実感に満ちているように見受けられました。『明るく賢い介護を』この言葉に未来が見えるように思いました。